

儂き世で今日も独り糸を操る、私は鬼か人間か・・・。



里女／鬼女 武田宗典

ヴァイオリン 篠崎“まろ”史紀

ソプラノ 森谷真理

クラリネット 金子平

2022年2月25日(金)19:00開演(18:15開場) ※出演者によるアフタートークあり  
観世能楽堂 (GINZA SIX 地下3階) 全席指定 5,000円(税込) 2022年1月8日(土)チケット発売

観世能楽堂 03-6274-6579(9:30~17:30)/KANZE.net

Confetti(カンフェティ)

0120-240-540(平日10:00-18:00)

<https://www.confetti-web.com/adachigahara>

チケットぴあ <https://t.pia.jp>

e+(イープラス)

<https://eplus.jp>

ローソンチケット <https://l-tike.com/order/?gLcode=36128> ローソン・ミニストップ店内 Loppiで直接購入【Lコード:36128】

新型コロナウイルス感染防止のため、ご来場時にはマスクの着用をお願いいたします。また会場では手指の消毒液を設置し、検温を実施しております。当日は、時間に余裕を見てご来場ください。皆さまのご協力をお願いいたします。

【主催】文化庁  文化庁 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会



東京アート&ライブシティ構想実行委員会



「令和3年度戦略的芸術文化創造推進事業」

お問い合わせ:公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会【芸団協】03-5909-3060 (平日10:00~18:00)

儂き世で今日も独り糸を繰る、私は鬼か人間か…。

歌舞伎、漫画、オペラ等、あらゆる作品に姿を変えて人々を魅了してきた安達原の鬼女伝説。

2022年、もう一つの新たな鬼女伝説が、能とクラシック音楽のコラボレーションで描き出されます。

ちょっと覗きに、銀座の地下に誘い込まれてみませんか。

そこに棲むのは鬼女か、はたまた…。

シテ: 武田宗典 / ワキ: 森常好 / ワキツレ: 舘田善博 / アイ: 野村太一郎

地謡: 岡久広・観世芳伸・関根知孝・藤波重孝・角幸二郎・坂井音雅・清水義也・木月宣行

後見: 武田宗和・山階彌右衛門

笛: 一噌隆之 / 小鼓: 田邊恭資 / 大鼓: 亀井広忠 / 太鼓: 小寺真佐人

ヴァイオリン: 篠崎“まろ”史紀 / ソプラノ: 森谷真理 / クラリネット: 金子平

作曲: 加藤昌則 / 演出: 家田淳 / 照明: 大淵智徳 / 舞台監督: 浅野武治



### 武田宗典 Munenori Takeda (能楽師シテ方観世流)

(公社)能楽協会会員。重要無形文化財総合指定保持者。(一社)観世会理事。早稲田大学第一文学部演劇専修卒。父・武田宗和及び二十六世観世宗家・観世清和に師事。2歳11か月で初舞台、10歳で初シテ(主役)、以後、「石橋」「乱」「道成寺」「望月」「翁」等を披く。海外公演多数。2014年アメリカにて、能と現代オペラの二部作競演『Tomoe&Yoshinaka』を企画し、両作品で主演を果たす。2021年(一社)EXTRAD主催公演において、試作能「桃太郎」を製作・主演。『武田宗典之会』主宰。舞台公演の他、「謡サロン」等の能楽講座・ワークショップを国内外で多数開催している。



### 篠崎“まろ”史紀 Fuminori Maro Shinozaki (ヴァイオリン)

愛称“まろ”。NHK交響楽団第1コンサートマスター。3歳より父にヴァイオリンの手ほどきを受ける。15歳の時に毎日学生音楽コンクール全国第1位。高校卒業後ウィーン市立音楽院に入学。翌年コンツェルト・ハウスでコンサート・デビューを飾り、その後ヨーロッパの主要コンクールで数々の受賞を果たす。1988年帰国後、群馬交響楽団、読売日本交響楽団のコンサートマスターを経て、97年に34歳でNHK交響楽団コンサートマスターに就任。以来“N響の顔”として国内外で活躍中。96年より東京ジュニアオーケストラソサエティの音楽監督、WHO評議会委員を務め、そのコンサートにも熱心に取り組んでいる。2020年度 第33回 ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞。



### 森谷真理 Mari Moriya (ソプラノ)

武蔵野音楽大学大学院首席修了後、ニューヨーク・マネス音楽院プロフェッショナル・スタディーズコース修了。メトロポリタン歌劇場『魔笛』夜の女王で成功を収めた後、リンツ州立劇場(奥)専属として『マリア・ストゥアルダ』、『椿姫』のタイトルロールなど様々な役を演じ、ウィーン・フォルクスオーパー、ライブツィヒ・オペラなどにも客演。びわ湖ホール『リゴレット』ジルダで国内オペラデビュー以降、同『ローエングリン』エルザ、日生劇場『ルチア』、二期会『ルル』『蝶々夫人』『サロメ』いずれもタイトルロールで高評を得る。コンサートでも国内外の主要オーケストラと共演し、最近ではオペラ・アリアによるN響公演で絶賛を博す。令和元年「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」で国歌独唱を務めた。



### 金子平 Taira Kaneko (クラリネット)

1984年、埼玉県所沢市生まれ。東京藝術大学、2005年から独リューベック国立音楽大学で学び、12年同大学院卒業。01年ヤング・クラリネティストコンクール・ヤングアーティスト部門第1位。06年日本音楽コンクール第1位、併せてE.ナカミチ賞、岩谷賞(聴衆賞)。08年ヴィースバーデン・モーツァルト・コンクール第1位、同年ARDミュンヘン国際音楽コンクールで日本人初の第3位入賞、09年ルイ・シュポア・メダルなど受賞多数。09年から12年までリューベック歌劇場管弦楽団(リューベック・フィル)でクラリネット奏者を務めた。NHK-FM番組、木曾音楽祭、東京・春・音楽祭などに出演。現在、読売日本交響楽団首席クラリネット奏者、紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。

### 加藤昌則 Masanori Kato (作曲家・ピアニスト)

東京藝術大学作曲科首席卒業、同大学大学院修了。作品はオペラ、管弦楽、合唱曲など幅広く、創意あふれる編曲にも定評がある。多くのソリストに楽曲を提供、共演ピアニストとしても評価が高い。独自の視点、切り口で企画する公演やクラシック講座などのプロデュース力にも注目を集めている。NHK-FM「鍵盤のつばさ」番組パーソナリティー。長野市芸術館レジデント・プロデューサー。

### 家田淳 June Iyeda (演出)

10代をアメリカで過ごす。国際基督教大学卒業。エディンバラ大学留学。英ロイヤルオペラハウスにて研修。二期会、新国立劇場他で世界的な演出家の演出助手を多数務めたのち、オペラ、コンサート、ミュージカルを中心に構成・翻訳・台本・演出を手掛ける。近年は日本語と英語の字幕製作でも「クラシックキャラバン2021」ほか数多く担当。洗足学園音楽大学准教授。

